

令和元年度 園評価について

園評価の視点

- (1) 園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われていたのか。
- (2) 職員の研修内容とその成果は、現場に反映されていたのか。
- (3) 保育士間で必要な連携がとれていたのか。
- (4) 日々の保育に必要な環境構成及び設定は適切であったか
- (5) 保護者との連携は十分に取れていたのか

保育計画及び保育の内容を職員間で話し合い、こどもたちに豊かな経験ができるよう保護者や地域の協力で園運営をすることができた。日々の保育は季節の行事や園の行事に取り組み環境設定や場面に応じた保育をすることができた。他県で園児が保育中に交通事故に巻き込まれる事故があり、当園でも園外活動に対する安全点検を確認し、また、園児にも交通ルール指導を守り、命の大切さを指導した。

保護者には、園便りやクラスたよりで園の様子を知らせ、登園、降園時に直接話をする機会を持ち、園の理解をしていただき、保護者の方の協力で日々の運営ができた。

園の行事にも保護者のかたには協力をしていただき、季節の取り組みや地域の活動にも参加でき豊かな経験がこどもたちと楽しめた。一色町の地域の文化である『一色能』には、一色能保存会の会員が年長児に月2回、謡の指導をしていただき地域文化に触れることができた。

園の行事等、保育に支障がない場合、子育て支援活動園開放ができ、子育ての保護者には好評であった。今後も実施を続けていきたい。

職員の配置も早番、遅番に未満児担任が定着できたため、こどもや保護者が安心して利用することができた。

職員の離職防止に努力をしており、保育の充実を図るために人材の育成が課題である。社会では、働き方改革が問題となっているが、当法人でも、職員の業務の省力化を検討した。保育補助員を配置し、保育周辺業務を担当してもらい保育士の働きやすい職場環境をつくるよう努め、また年次有給休暇の取得もしやすいよう努めた。職員が働きやすい環境がこどもたちに良い生活環境になるとおもわれる。

保育時間が長くなり、職員が全員での会議や研修の時間が設けられないが職員間で、連絡、報告を確実にできるように考えていきたい。園内での研修は保育士が疑問に感じていることや保育で実践できることに取り組み、共通の理解を持って保育にあたることができた。

社会的に虐待が取り上げられ、小さいこどもの命が傷つけられている事件があるので、社会的背景も考え、保育園の時代にこどもたちが虐待されないよう職員で研修する機会を多くもった。

外部の研修にも参加し、研修報告で理解を深めることができた。

地域の少子化が進み、現状とは将来大きく変化すると思われる。地域のニーズに対応できる

ように努めたい。

園の状況をホームページで公開して情報開示に努めているが、園運営を広く情報開示により努めていきたい。

苦情相談について

令和元年度、苦情申し出はありませんでした。